

学校教育目標

中野区教育委員会の教育理念「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」を踏まえ、人権尊重の精神を正しく理解し、豊かな心をもった人間の育成を目指し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子ども、「考える子」「思いやりのある子」「元気な子」の育成を図る。
 考える子(重点目標)…基礎的、基本的な内容を理解し、興味・関心を高めて学び、思考力・判断力・表現力を身に付けて、主体的・対話的に学ぶ子

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)

これからの時代を生きる子どもたちに必要な確かな学力の育成

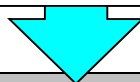
- 誰一人取り残さない持続可能な社会を実現するというSDGsの視点で、自ら課題を見つけ、自分の考えをもち、考えを表現し合って対話し、解決する力を育む。
- デジタル技術を活用して、生活や人生を豊かにする力、知的好奇心をもって探求する力、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて努力する力を育む。

指導の重点(各教科)

- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践
- 自分の考えを書き、発表し合って対話し、考えを深化・統合し、変容する活動の実践
- 指導と評価の一体化を図った授業改善プランの作成と実践
- 個に応じた指導の充実
- ユニバーサルデザインの実践による「わかった・できた」が実感できる学習活動
- 家庭学習習慣の確立と、デジタル端末を活用した家庭学習の効果的実践
- デジタル端末等のICT機器を活用した個別最適化した学習と協働学習の両立
- 論理的思考の育成をもとにしたプログラミング的思考や情報活用能力の育成
- 体力・運動能力を向上するための体育科授業
- 正しい知識を習得することによる病気の予防と健康の保持増進
- 学校図書館のセンター機能の活用
- 外国語による言語活動基礎的な資質・能力の育成
- 第5・6学年を中心にした教科担当者制による魅力的ある授業実践
- 特別支援教育の視点を常に忘れない指導

指導の重点(総合的な学習の時間)

- 生活科と総合的な学習の時間における全学年での探求的な学習の実践
- ESD、SDGsを視点とした課題把握
- 体験学習や外部教育力を活用し特別授業の積極的実践
- 学力の3要素を踏まえた評価規準の設定と評価の工夫



授業改善に向けた具体的方策

基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
<ul style="list-style-type: none"> ○任期付き短時間教員を活用したTTや極少数指導 ○朝の「学びタイム」、「家庭学習」「夏季補充教室」での反復学習 ○任期付き短時間教員が中心となり、ボランティア協力を得ての算数補充教室「算数道場」の実践 ○A Iドリル「Navima」「キュビナ」の徹底活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○A Iドリル「Navima」「キュビナ」の活用と家庭学習ノートの活用 ○児童の知的好奇心と学びに向かう力の向上を図るための外部教育力を活用した体験学習と特別授業 ○「個別最適な学び」を通常の授業で実践することによる個の意欲や能力を活かした学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数2学年の繰り上がり、繰り下がり、九九の徹底と算数3～4学年の筆算の徹底による、計算力の向上 ○自分の考えをもって書く、自分の考えを述べることによる、話す・聴く力の向上 ○東京ベーシックドリル診断テストの年3回実施
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自分の考えをつぶやき、述べる授業 ○児童の言葉をひろって、つないで、児童の言葉で進める授業 ○児童が個に応じた課題を見付け、個に応じた方法で課題解決に取り組む、発表や対話の中で協働的に学ぶ授業 ○デジタル端末や図書館を活用した探求学習の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかった・できた」を全児童が感じることができるようするためのUDの実施 ○「視覚化」「焦点化」「共有化」した授業実践 ○「刺激量調整」「ルールの明確化」「構造化」「認め合う場づくり」を行った教室環境・人的環境の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別面談において、学習状況やA Iドリルの活用状況を踏まえた児童の長短の共有 ○家庭学習推進旬間を実施することによる家庭学習の充実 ○6月と11月の読書月間を通じた読書に親しむ態度の育成 ○地域の施設や人材の活用した体験学習、専門的な学習の実施

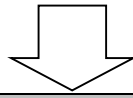
2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【小学校】

国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。自分の考えをもって書く。考えを発表し合って教師や児童と対話し、考えを深化・統合するとともに、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
<p style="text-align: center;">区学力調査の結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本校は、低学年で区の目標値を下回ることが多い。今年度も、2年において、区の目標値を下回る項目が多い。 ● 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」は、多くの学年で目標値を超えるとともに、都や区の平均を超えている。 ● 2、3、4年で「情報の扱い方」「言語文化」、5、6年で「書くこと」について重点を置いて指導する必要がある。
<p style="text-align: center;">教科指導上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現する学力を身につけられるよう、書く力に重点を置いて指導する必要がある。書く力を高めるための要素として、次のことが考えられる。①自分の考えを表現したいという意欲をもつ。②自分の考えを表現するために適切な言葉を選ぶ力をもつ。③間違ふこと、他者と違うことを恐れず自分の考えを述べる心情をもつ。 ● 書く力を高めるため、読む学習において、叙述に対する自分の考えをもって書き、友達と対話する中で自分の考えを述べる経験を積めるよう指導する必要がある。



授業改善プラン			
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)	
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が、教材文に対する学習を進め、叙述に対する自分の考えをもってまとめる中で、個別の学びを進められるようにする。 ● 自分の考えを発表し、友達や教員と対話することを通して、自分の考えを深め、まとめるといった協働的な学びを行えるようにする。 ● 学級全体で同じめあてに取り組むだけでなく、また、教師が提示したまとめ方だけでなく、児童が自らめあてをつくり、自らまとめ方を工夫して、叙述に対する自分の考えをまとめる学習を進めることで、個別最適な学びを行えるようにする。 ● 個別最適な学びを進めた成果を発表し合い、対話し合うことで、個別最適な学びと協働的な学びを一体化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 言葉遊びなどの学習を取り入れ、語彙を豊かにし、言葉を用いることの楽しさを感じられるようにする。 ● 読書活動から知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりできるようにする。 ● 自分の考えや思いを表現するために、対話を用いた学習を取り入れ、自分の考えや思いが相手に伝わる喜びを感じられるようにする。 ● 自分が話したことをそのまま記録に残す活動を取り入れ、書くことへの意欲をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● しりとりやなぞなぞ、早口言葉等の活動を日頃より取り入れ、言葉と意味を結びつける活動を行う。 ● 定期的に読み聞かせやサイレント読書の活動を行う。 ● 理解力を養うために、語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読活動を行う。 ● 身に付けた語彙を正しく表現するために、デジタル教材を活用し、平仮名や片仮名の読み書きや助詞の活用、文のつながり等の指導を繰り返し行う。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別最適な学びができるよう、文章を書く学習の際、いくつかのワークシートを用意し、自分で選択して学習できるようにする。 ● 協働的な学びが進められるよう、自分の書いた文章を友達と読み合い、感想を伝え合うことで、友達と交流するよさを見いだせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末とデジタル教材を使用し、漢字や読解の学習を繰り返し行う。 ● 説明文を読んで正しく問題に取り組めるように学びタイムで読解力を高めるプリント学習を行う。(3年) ● 漢字学習の際に、へんとつくりの指導を繰り返し行っていく。(4年) 	

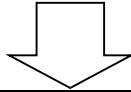
5・6年生		<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な場面で考えを交流する機会を設けて、児童が自分の考えをもって学習に参加できるようにする。 ● 児童が自ら課題を決め、目的意識や必要感をもちって学習を進めることができるようにする。 ● 考えを共有したり、振り返りをしたりして、自己の考えの変容を児童が感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末とデジタル教材を使用し、自分の進度に合わせて漢字の学習を進められるようにする。 ● 熟語や送り仮名も意識できるように、朝学習の時間に漢字の習熟を図る。(5年生) ● 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、自分の気持ちを膨らませる表現や、技法を提示しながら、書く指導を行う。 ● 文章を書く機会を日常的設ける。
-------	--	---	--

(2) 社会科

【小学校】

社会科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。資料をもとに学習問題に対する自分の考えをもって書く。考えを発表し合って教師や児童と対話し、考えを深化・統合するとともに、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習問題に対して、複数の資料から分かることや必要なことを選び取ったり、読み取った事実から自分なりの考えをまとめたりできるよう指導する必要がある。特に高学年の学習では、単に用語を暗記するだけではなく、社会的事象に対してなぜそのようなことが起きているのかを資料などから考え、自分の言葉で言語化できるよう指導する必要がある。



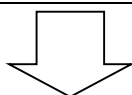
授業改善プラン			
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)	
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が、資料をもとに学習を進め、自分の考えをもってまとめる中で、個別の学びを進められるようにする。 ● 自分の考えを発表し、友達や教員と対話することを通して、自分の考えを深め、まとめるといった協働的な学びを行えるようにする。 ● 学級全体で同じ学習問題に取り組むだけでなく、また、教師が提示した資料だけでなく、児童が自ら学習問題をつくり、自ら資料を探し、選んで学習を進めることで、個別最適な学びを行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童にとって身近な題材を用意して教材化するなど、全ての児童が意欲的に参加できるようにする。 ● 単元を貫く学習問題を追究する場面においては、デジタル端末を利用して、個々の児童が考えたり調べたりできるようにする。 ● デジタルアプリケーションを活用して、個々のまとめたことや考えたことを集約することで、児童が互いの考え共有し、自分の考えを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 調べ学習で必要となる方角や地図記号、都道府県の場所や名前などは、全体で指導を行った後に、デジタル端末のデジタル教材やデジタルドリルで、繰り返しの学習を行う。 ● 個別の学習の成果を協働的な学びの中で発表し、対話することを通して、基礎的・基本的な内容を繰り返し活用して表現することにより、児童の中で定着するようにする。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別最適な学びを進めた成果を発表し合い、対話し合うことで、個別最適な学びと協働的な学びを一体化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1つの資料を様々な視点で考える問題から、複数の資料から共通するキーワードを考えたり、関連付けさせたりする問題へと段階的に指導していく。社会的事象を資料などから読み取る場面では、デジタル端末を利用して資料を細かく見たり、必要に応じて調べたりして意見を集約し、多角的・多面的に考えを深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的事象を読み取るために必要となる地図・地球儀や年表、資料集を活用した読み取りを行う場面では、全体的に指導を行う。デジタル端末とデジタル教材やデジタルドリルを活用し、繰り返しの学習を行う。 ● 個別の学習の成果を協働的な学びの中で発表し、対話することを通して、基礎的・基本的な内容を繰り返し活用して表現することにより、児童の中で定着するようにする。

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。問題解決の方法について、自分の考えをもち、図や表、式、言葉をつかって書く力、考えを発表し合って教師や児童と対話し、考えを深化・統合するとともに、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
区学力調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ● 本校は、低学年で区の目標値を下回ることが多い。今年度も、2年において、区の目標値を上回らないの項目が多い。 ● 「思考・判断・表現」については、すべての学年で目標値を上回るとともに、区・全国平均を上回る学年が多い。2年にわたる研究への取組の成果であると考え。2年で「図形」、3・5年で「データ活用」の結果が低い。また、5年は「基礎」「知識・技能」の結果が低い。
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の言葉を生かして学習の「めあて」、「まとめ」をつくり、児童が自ら問題解決に向かえるよう指導する必要がある。 ● 比較、検討場面では、数学的な考え方を基に児童の考えを価値付けることで、数学的な考え方を育めるよう指導する必要がある。 ● 教師の言葉を少なくし、児童同士で対話をしながら考えを練り上げる展開にすることで、学びに向かう力、思考力・判断力・表現力を育めるよう指導する必要がある。



授業改善プラン			
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)	
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が、問題解決の仕方について自分の考えをもち、図や表、式、言葉をつかって表現する中で、個別の学びを進められるようにする。 ● 個別の学びの成果を発表し、友達や教員と対話することを通して、問題解決の仕方を深化・統合してまとめるといった協働的な学びを行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自力解決の時間を十分にとり、児童が自分の考えを明確にして、友達に伝えられるようにする。 ● 比較、検討場面では、相手意識をもって自分の考えを説明できるようにするために、説明箇所を指で指したり、「なぜなら～」など理由をつけたりして、分かりやすく説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を使用し、加減計算の反復練習を行う。 ● 数と計算領域の学習では、問題場面を正しく把握して立式するために、簡単な図を使って考えることを習慣化するとともに、問題場面を友達に説明することで理解を深められるする。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 学級全体で同じ問題に取り組むだけでなく、児童が自ら学習問題をつくり、自ら問題解決を進めることで、個別最適な学びを行えるようにする。 ● 個別最適な学びを進めた成果を発表し合い、対話し合うことで、個別最適な学びと協働的な学びを一体化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が問い返しを行うことにより、児童が互いの考えの良さに気付き、数学的な見方・考え方を価値付けられるようにする。 ● 比較、検討場面では、全員の前で行う発表、2つの立場に分かれて行う討論、近くの友達との考えの共有など様々な表現方法を教師が提示して経験できるようにすることで、児童が高学年になった時、自分に必要な表現方法が選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用し、四則計算の反復練習を行う。 ● 時刻と時間や物差しの読み取り方など、知識・技能的な内容について、授業の最初の5分間に毎時間モジュール学習的に取り組む。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童同士で、互いの考えを価値付け、つなぐ授業を行う。 ● ノートやデジタル端末など、自分の考えを表現する場を選択 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用し、整数、小数、分数の加減乗除の反復練習を行う。 ● 思考力の向上、知識・技能の 	

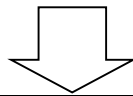
		<p>できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 考えを発表する際には、黒板や大型テレビに映すなど、自分に必要な方法を選択して発表できるようにする。 ● 例えば、学級全体で平行四辺形の面積の求積方法を学習した後に、三角形などのほかの図形の求積方法について個々の児童が自分で学習計画を立てて学習を進めていけるようにする。 	<p>向上、それぞれに重点をおく時間をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図形領域の学習では、正しく教具を使用して作図する力を育めるよう、デジタル教材を活用する。 ● 立式をする際は、数直線、式、答えをセットにして考える習慣をつくる。そのために、全児童が数直線を活用できるようにする。 ● 個別の学習の成果を協働的な学びの中で発表し、対話することを通して、基礎的・基本的な内容を繰り返し活用し、表現することにより、児童の中で定着するようにする。
--	--	--	---

(4) 理科

【小学校】

理科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。問題に対する解決の方法について自分の考えをもって書く。考えを発表し合って教師や児童と対話し、考えを深化・統合するとともに、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
<p>教科指導上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然事象に対して自ら問題を見だし、自ら問題解決する力を育むとともに、問題意識や問題解決力を身につけることで生活や人生を豊かにする力を育めるよう指導する必要がある。 ● 自然事象に対し、児童の生活経験や既習事項から問題を見だし、学習問題をつくれるよう指導する必要がある。 ● 問題解決のプロセスにおいて、児童の言葉を尊重して学習を進めることで、学びに向かう力、思考力・判断力・表現力を育めるよう指導する必要がある。



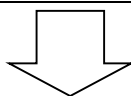
授業改善プラン			
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)	
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が、自然事象に対して自ら問題を見だすとともに、問題解決の仕方、結果から考察できることについて自分の考えをもち、表現する中で、個別の学びを進められるようにする。 ● 個別の学びの成果を発表し、友達や教員と対話することを通して、自然事象に対する疑問、問題解決の方法、自然事象の仕組みの理解について、深化・統合してまとめるといった協働的な学びを行えるようにする。 ● 学級全体で同じ問題に取り組むだけでなく、児童が自ら学習問題をつくり、自ら問題解決を進めることで、個別最適な学びを行えるようにする。 ● 個別最適な学びを進めた成果を発表し合い、対話し合うことで、個別最適な学びと協働的な学びを一体化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用して、生物等を撮影記録し、児童同士で共有できるようにする。 ● 児童が自分の考えを表現し合い、その考えを児童同士で比較検討して、新たな考えへとつないでいけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元終了時にデジタル教材で学習を振り返ったり、デジタル端末で理科用語や概念を習熟したりする時間を設ける。 ● 観察を行う際、児童の特性や希望に応じて記録しやすいように、ワークシートとデジタル端末のどちらかで記録できるようにする。 ● 個別の学習の成果を協働的な学びの中で発表し、対話することを通して、基礎的・基本的な内容を繰り返し活用し、表現することにより、児童の中で定着するようにする。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用して、実験結果や観察画像を記録し、全体で共有、比較検討し、結果を導き出せるようにする。 ● 調べ学習を行って問題解決する場面では、グループなどで対話して問題を解決するような場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元導入時に、デジタル教材の視覚資料を活用し、単元の見通しをもてるようにする。 ● 単元終了時にデジタル教材で学習を振り返ったり、デジタル端末で理科用語や概念を習熟したりする時間を設ける。 ● 個別の学習の成果を協働的な学びの中で発表し、対話することを通して、基礎的・基本的な内容を繰り返し活用し、表現することにより、児童の中で定着するようにする。 	

(5) 生活科

【小学校】

生活科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。自分の考えをもって書く。考えを発表し合って教師や児童と対話し、考えを深化・統合するとともに、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
<p>教科指導上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な学習活動や体験を通して、児童が、家族や友達、地域の人々といった身近な人々や、社会及び自然とそれらの関わり等についての気付きを大切に学習を進めることにより、身近なことに関心や疑問をもって自ら学ぼうとする力を育めるよう指導する必要がある。 ● 児童自らの想いや願いに基づく学習を行うことを通して、やり遂げたい気持ちを味わえるようにするとともに、児童自身とのかかわりの中で学習を進め、身近なことに関心を持ち、必要な改善を行う習慣と技能を身に付けられるよう指導する必要がある。



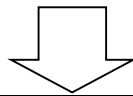
授業改善プラン			
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)	
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が、自らの気づきをもとに学習を進め、自分の考えをもってまとめる中で、個別の学びを進められるようにする。 ● 自分の考えを発表し、友達や教員と対話することを通して、自分の考えを深め、まとめるといった協働的な学びを行えるようにする。 ● 学級全体で同じ学習問題に取り組むだけでなく、児童が自ら学習問題をつくり、自ら体験を振り返るとともに、身近な人々や社会、自然に目を向けて学習を進めることで、個別最適な学びを行えるようにする。 ● 個別最適な学びを進めた成果を発表し合い、対話し合うことで、個別最適な学びと協働的な学びを一体化できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の実態に沿った学習計画を立てて、児童の興味・関心が高まるようにする。 ● 気付いたことについての児童の発言を教師が整理しながら板書することで、学習のねらいに焦点化できるようにする。 ● 観察や気付きの視点を示したワークシートや自由に記述できるワークシートを用意し、児童が自分の力に応じて選択できるようにする。 ● 児童がまとめたものを共有したり、自分のものと友達のものを見比べたりして振り返ることを通して、自分と友達の気付きの違いに気付けるようにする。 ● 友達の考えを聞いて自分の考えが変わったことを書く欄を作り、自分の考えの変容を児童が感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル教材に、写真やプリント、カードなどを取り込んでまとめ、友達と共有することを通して、気付きを増やせるようにするとともに、自分の考えを深められるようにする。 ● 気付きや発見を、児童が互いに共有することを通して、自分と友達の考えの違いを考えられるようにする。 ● 気付いたことをもとに、新たな疑問をもって活動しようとする思考や意欲を称賛して価値付け、新たなことに挑戦しようとする意欲を高める。

(6) 音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。音楽に対する自分の考えを發表するとともに、自分の思いや意図をもって表現する力、考えや表現をもとに教師や児童と対話し、考えや表現の質を高める力、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が音や音楽の美しさを感じ取る感性を働かせ、他者と協働しながら音楽活動に取り組むことで、児童に音楽表現を生み出し工夫する力、音楽と豊かに関わるための問題を解決する力を育めるよう指導する必要がある。 ● 児童が歌う喜び、演奏する喜び、リズムに乗って体を動かす喜びを味わえるようにするとともに、一人ひとりの表現を尊重する心を育むことを通して、音楽的な活動における学びに向かう力、表現力を育めるよう指導する必要がある。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動に対する自らのめあてをもち、課題解決のための活動を自ら選択して取り組むことを通して個別の学びを進められるようにし、個々の技能や表現力、鑑賞力を高められるようにする。 ● 個々の活動において、児童同士が見合い、教え合うことにより、協働的な学びを行えるようにする。 ● 個別の学びの成果をグループや学級の活動に生かすことで、個の学びだけでは味わえない集団で学ぶ喜びを感じられるようにする。 ● 個別の学びと協働的な学びを連続させることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽を聴いて体を動かす活動を行い、拍感や音程感覚、リズム感を身に付けられるようにする。 ● 範奏を聴いたり、リズム譜を見たりして演奏する活動を繰り返し行い、基本的な技能を身に付けられるようにする。 ● 音遊びを十分にを行い、音楽づくりの発想を得られるようにする。 ● 呼吸の仕方や自分の声に気を付けて歌う活動を繰り返し行う。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽の特徴を捉え、感じたことをデジタル端末を活用して友だちと交流し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができるようにする。 ● デジタル端末を活用し、手本となる動画を見られるようにし、個々の児童が自分の進度に合わせて個別学習を進められるようにする。 ● 即興的に表現することを友だちと行いながら試行錯誤し、音楽づくりの発想を広げられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する活動を繰り返し行い、技能が定着するようにする。 ● デジタル端末を活用し、自分の演奏を録音して聴いて振り返りができるようにする。 ● 音の響きや組み合わせ、フレーズのつなぎ方や重ね方の面白さに気付くようにするための即興的な表現活動を行う際は、児童が自由に発想し、自由に活動できるように声をかけ、場を設け、称賛する。 ● 呼吸の仕方に気を付けて、互いの歌声や伴奏を聴き、声を合わせて歌うことを繰り返す。

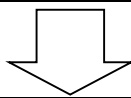
<p>5・6年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 曲の特徴にふさわしい表現を考え、デジタル端末を活用して友だちと交流し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができるようにする。 ● お互いの演奏を認め合い、学び合う中で技能や表現を高めていけるようにする。 ● これまでの学習を基に、個々の児童が音楽づくりを行った際、グループごとにデジタル端末を活用して交流し、グループで試行錯誤しながらより良い表現を探ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 範奏を聴いたり、ハ長調、イ短調の楽譜を見たりして演奏する活動を繰り返し行い、技能が定着するようにする。 ● 呼吸や発音の仕方に気をつけて、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴き、声を合わせて歌うことを繰り返す。
--------------	---	---

(7) 図画工作科

【小学校】

図画工作科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。造形に対する自分の考えを發表するとともに、自分の願いや思いをもって表現する力、考えや表現をもとに教師や児童と対話し、考えや表現の質を高めることから、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
<p>教科指導上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの発想を大事にする題材と、用具の使い方に慣れることを大事にする題材とをバランスよく組み合わせる必要がある。(1・2年生) ● 子どもが安全に用具を使うことができるよう導入を工夫し、そこからそれぞれの子どもの発想が広がっていくよう指導する必要がある。(3・4年生) ● 子どもがより深く自分のイメージを表すことができるよう、さまざまな作品のよさや表し方に触れることができるよう指導する必要がある。(5・6年生)



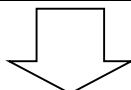
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動に対する自らのめあてをもち、課題解決のための活動を自ら選択して取り組むことを通して個別の学びを進められるようにし、個々の技能や表現力、鑑賞力を高められるようにする。 ● 個々の活動において、児童同士が見合い、教え合うことにより、協働的な学びを行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 書画カメラで実演し、はさみやのりなど用具の使い方を楽しみながら身に付けられるようにするとともに、材料の表し方の工夫の仕方が理解できるようにする。 ● 個人用絵の具などの用具の準備や片付けの仕方を視覚的に示すことで、理解を促すとともに活動に意欲的に臨めるようにする。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別の学びの成果をグループや学級の活動に生かすことで、個の学びだけでは味わえない集団で学ぶ喜びを感じられるようにする。 ● 個別の学びと協働的な学びを連続させることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● のこぎりやかなづちなどの安全な使い方について、動画を使って子ども全員が理解できるようにする。 ● 習熟度別にグループに分け、用具の使い方を実演しながら説明するなどして、確実に技能が定着するようにする。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 作品づくりの過程を視覚教材で提示することで、さまざまな材料や用具を組み合わせる自由を表しながら、児童が自分で活動の見通しをもつことができるようにする。 ● デジタル端末を用いて作品づくりや友達との共有を行って活動を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 版画の学習では、数種類の彫刻刀を使い分けることで、児童がもつ様々なイメージを表現しやすくなる。そのために、安全な彫刻刀の使い方を計画的に指導して、技能が定着するようにする。 ● 鑑賞カードや画像、大型の視覚教材などを活用して、日本や世界の芸術作品に触れ、造形的な見方を豊かにできるようにする。

(8) 家庭科

【小学校】

家庭科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。よりよい生活を営むための自分の考えを發表するとともに、生涯にわたって健康で豊かな生活を営むための知識や技能を育む。自分の考えを表現することや調理や製作等の体験的な活動を通して、教師や児童と対話し、考えや技能の質を高める力、学習を振り返って自らの変容に気付く力を育む。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 既習の知識及び技能や児童の生活経験の中から問題を見だし、学習問題を設定して学習できるように指導する必要がある。 ● 実践的・体験的な活動を基に、知識及び技能を獲得したり、深めたりできるように指導する必要がある。



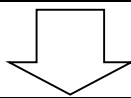
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動に対する自らのめあてをもち、課題解決のための活動を自ら選択して取り組むことを通して個別の学びを進められるようにし、個々の技能や表現力、鑑賞力を高められるようにする。 ● 個々の活動において、児童同士が見合い、教え合うことにより、協働的な学びを行えるようにする。 ● 個別の学びの成果をグループや学級の活動に生かすことで、個の学びだけでは味わえない集団で学ぶ喜びを感じられるようにする。 ● 個別の学びと協働的な学びを連続させることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 衣食住の生活の学習では、友達と教え合うとともに、デジタル端末を活用して自分の課題に合ったデジタル教材を選択して練習することで、基礎的・基本的な内容が定着するようにする。 ● 児童の技能の習熟の程度や興味・関心などを把握し、調理や製作等の実習や、観察、実験などの指導において、チームティーチングを取り入れ、個別指導を行う。

(9) 体育科

【小学校】

体育科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、基礎的・基本的な知識や技能の習得及び、それらを活用するための思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性を育む。体力・運動能力調査の結果や今もっている力を踏まえ、目指す力の獲得ややめあての達成に向けて取り組む運動を考え実践する力を育む。「面白い」「わかる」「できる」運動に取り組めるようにするとともに運動量豊かに活動できるようにすることで、運動に取り組む意欲と体力・運動能力を育む。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童にとって、面白く魅力ある運動、わかる・できるを体験することができる運動や場を構築して、児童の運動意欲を高められるよう指導する必要がある。 ● 運動の習慣化と豊かなスポーツライフにつなげるため、運動の基礎を養い、多くの運動領域の学習を経験できるように指導する必要がある。 ● 体力・運動能力テストの結果を踏まえた上で、学校全体の課題と個々の児童の課題の達成に必要な運動を構築し、授業と体育的活動において取り組めるようにする必要がある。



授業改善プラン			
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)	
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動に対する自らのめあてをもち、課題解決のための運動を自ら選択して取り組むことを通して個別の学びを進められるようにし、個々の体力や運動能力を高められるようにする。 ● 個々の運動において、児童同士が見合い、教え合うことにより、協働的な学びを行えるようにする。 ● 個別の学びの成果をグループや学級の活動に生かすことで、個の学びだけでは味わえない集団で学ぶ喜びを感じられるようにする。 ● 個別の学びと協働的な学びを連続させることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「〇〇遊び」が多い低学年の体育では、児童が楽しんで運動できるよう活動を計画する。 ● 教師の説明の時間を簡潔にして、運動量を確保し、十分に運動する中で、その遊び(活動)に必要な運動特性に気付けるようにする。 ● 身に付ける運動特性のレベルは個々の児童によって異なるため、児童の発達に即した運動特性を複数提示し、個別最適な学びにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童にとって安心・安全な環境を設定する。例えば鉄棒遊びでは、鉄棒の下にマットを敷いたり、教師が補助できる児童数で取り組むようにすることで児童が恐怖を感じることなく、思い切って運動に取り組めるようにする。 ● 「ももにんピック」などの旬間活動を生かして、期間内に何度も同じ活動を繰り返すことで基礎的・基本的な内容の定着するようにする。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の実態に合わせて、機能的特性が明らかな運動・活動を計画する。 ● 児童に対して学習計画を示し、児童が学習の見通しをもって主体的に取り組めるようにする。 ● 児童が見付けた技能や学びのポイントをまとめた掲示物やデジタル教材で提示する資料を充実し、どの児童もいつでも振り返り、課題解決できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用して、自分の動きと手本となる動きの動画を比較できるようにし、児童が自ら課題を見付け、課題に合った練習ができるようにする。 ● 集団で行う運動の単元には、記録した動画やデジタル教材で提示した課題をもとに、児童が集団の中の役割を確認し、友達と協力して安全に取り組めるようにする。 	
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の説明の時間を簡潔にまとめ、運動量を確保する。 ● 児童が自分の課題を見付け、その解決のための活動を工夫したり、場を選んだりできるようにする。 ● 見付けた運動のポイントなど 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動の課題にあった場を用意し、スモールステップで、基本の動きが身に付けられるようにする。 ● 学習の始めに、帯で、走る活動やボール投げの運動を入れて継続して取り組めるようにす 	

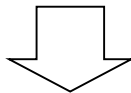
		<p>を、児童同士で伝え合えるようにするとともに、掲示物にして可視化して共有できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 友達の動きを見て、良さに気付き、自分の運動に取り入れられるようにする。 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用して、自分の動きを記録し、初めの時との違いを捉え、意欲を高めたり、課題をつかみ易くしたりすることにより、その局面で、何を意識すればよいか分かり易くなるようにする。
--	--	---	--

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

外国語活動・外国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・対話的で深い学びを実現し、外国の言語や文化についての知識や外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるようにする。身近で簡単な事柄についての自分の考えを外国語で表現することを通してそれらを活用するための思考力・判断力・表現力を育むとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が主体的・対話的に学ぶために、知識及び技能をおさえながら、実際のコミュニケーションにおいて活用し、思考・判断・表現が繰り返すことができるような目的や場面、状況などを設定して指導する必要がある。 ● 次の学年や中学校の学習に円滑に接続できるよう、児童の習熟度を踏まえながら発展的な内容を織り交ぜて指導する必要がある。



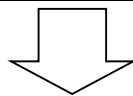
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動に対する自らのめあてをもち、課題解決のための活動を自ら選択して取り組むことを通して個別の学びを進められるようにし、個々の技能や表現力、鑑賞する力を高められるようにする。 ● 個々の活動において、児童同士が見合い、教え合うことにより、協働的な学びを行えるようにする。 ● 個別の学びの成果をグループや学級の活動に生かすことで、個の学びだけでは味わえない集団で学ぶ喜びを感じられるようにする。 ● 個別の学びと協働的な学びを連続させることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用し、外国語の音声を何度も聞けるようにすることで、外国語特有の音やリズムに十分に慣れ親しむことができるようにする。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ● 機械的に話すのではなく、児童にとって身近に感じ、自分のことを話す楽しさを感じられるように言語活動を行う。 ● デジタル端末やデジタル教材を活用し、実際の映像や様子を見たり、自分の伝えたいことを可視化できるようにしたりして、相手により伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル端末を活用して、英文の構成を考えたり、自分の話した英語が正しく伝わっているかを確認できるようにする。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

道徳科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">● 自分の考えを基に行う話し合い活動や自分の考えを書く活動を継続的に行うことを通して、道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">● よりよく生きる基礎となる道徳性を育成するために、児童の発達の段階に応じ、人間らしさを表す道徳的価値にかかわって道徳的心情や判断力、実践意欲と態度などを育む働き掛けを行って指導する必要がある。● 児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実させて指導する必要がある。● デジタル時代を生きる児童に、他者への思いやりや約束、決まりを守ることなどの道徳的価値を基盤に、情報を扱う上で配慮すべきことやルールなどを関連付けて、情報モラルについて指導をする必要がある。



授業改善プラン
具体的な授業改善案
<ul style="list-style-type: none">● 自分の考えを基に表現する機会の充実のためには、児童それぞれに自分の考えをもたせるための工夫が必要である。そのため何について考えるのか明確に示す必要がある。例えば読み物資料であれば、どの場面で、どの登場人物のどのような行為、判断、動機などの何について考えるのか具体的に示す。● 書くことで、それまで曖昧であった自分の考えが整理されたり、日頃は忘れていた体験や自分自身のことを思い出したりできるようにする。学習を通して、はじめの段階とは自分がどう変わったかが分かるように発問したり、ワークシートを作成したりする。● 想定したもう一人の自分に問いかけて考えを深めて書けるようにするなどして、自己内対話を促す。● 日頃から、報道や書籍、身近な出来事に教材を広く求める姿勢をもち、地域の文化や出来事を取材した郷土資料、映像メディアやインターネット等の情報通信の教材など、自然や文化、スポーツなどを題材とした教材の開発を行う。● 情報機器を活用したり、講師を招いたり、デジタル端末を活用して協力しながら学習を進めたりできるようにすることで、児童の学習意欲を高めて主体的に学習を進められるようにする。